

関東支部

関東支部 副会長

山本 千秋

(昭和41年林学科卒)

第10回関東支部総会・講演会・懇親会は、2013年6月9日、東京港区田町駅前にあるキャンパス・イノベーションセンター内の山形大学東京サテライトで開催されました。参加者は、会員41名、他学部同窓会員等あわせて50名でした。

【総会】岩城功希総務(38農工)の司会で進行。山本千秋副代表(41林)が開会を宣し、佐藤善作代表(38農)が、10回目の総会を迎えられたのは事務局や歴代代表の努力のためもの、同窓の皆さんが元気で地域での交流を深めてほしいと挨拶されました。松山正弘会計(57農工)の会計報告、柚田大太郎監事(39農)の監査報告に続き、山本副代表から中規模の規約改正が提案されました。

改正の要点は、①関東支部地域に新潟県を加える等会員規定の整序②各学部同窓会の一本化の動きをにらみ、役職名の代表、副代表、理事、年代幹事を廃し、会長、

副会長、幹事とし、新たに事務局長、事務局次長を置く③総会審議事項に事業報告・計画を付加する等です。

眞嶋敏晴理事(43林)から鶴窓会本部代議員会の報告、岩城総務から年代幹事の一部交代と会員動向などの説明を受け、尾西文郎副代表(48園芸)の閉会の辞で、総会の全案件が承認され終了しました。

【講演会】総会後の講演会開催は4回目となり、支部の事業として定着しつつあります。今回は、山形大学教育学部28年卒・教友会東京支部の蜂谷義雄元支部長をお招きし、「新島流人と天有法印」というテーマでご講演いただきました。

「天有」は、江戸時代前期の羽黒山の別当で、同山中興の祖といわれる高僧でしたが、庄内藩主酒井家との領地問題や内部の宗派争いで新島に流罪となり、7年後に亡くなりました。

講師の蜂谷氏は新島で校長を務められた経験があり、望郷の念を抱きつつ寂しい末路をたどった天有法印の事績を、伊豆諸島の流人たちの歴史や暮らしとあわせて紹介されました。

【懇親会】記念写真を撮影したあと、眞嶋敏晴、篠原齊

四郎(47林)両幹事の司会で懇親会に移りました。佐藤代表の挨拶に続き、鶴窓会本部の菅原幸司副会長(49農化)から祝辞を頂きました。本部では学部同窓会相互の連携のあり方を議論しているが、他学部の同窓会と交流を進めている関東支部の先進活動に注目すると話されました。

この1年間の物故者5名への黙祷、乾杯の後は歓談へと進み、他学部同窓会代表、山大校友会、鶴岡市東京事務所の方々などのご挨拶も受けました。参加記念の品々としては、恒例の山形・庄内の物産品や大学グッズに加え、庄内町のマルハチ(阿部敏明社長・50農化)から新鮮な漬物が提供されました。

あちこちに交流の輪が広がり、名残つきな集いも時間には勝てず、来年の再会を約してお開きとなりました。駅の近くで開かれた二次会も大いに盛り上がりました。

今回の講師依頼も漬物提供の企画も、きっかけは「二次会での深い交流」でした。二次会も楽しい当関東支部に、さらに多くの方々が結集されることを呼びかけます。



関東支部総会 平成25年6月9日(日) 於 山形大学 東京サテライト

第七回 関西支部総会 報告

T・Y&K・O

鶴窓会関西支部は昨年10月6日に6回目を終え、11月に米沢工業会に招待を受け参加、又今年1月にはふすま会と同じく参加、そして、花咲き新緑香る4月20日今年新たに第一回都市の自然環境研究会(俗称芋煮会)が開催されました。又、5月25日には本部総会に参加しました。当会各幹事・会員とのネットワーク打合せがもたれた。また、新鶴窓の森(学園全体)構想の調査(プロテクター使用により懐かしい大学周辺施設映写)にも着手しました。



第七回鶴窓会関西支部総会次第
日時 平成25年10月5日(土) 17:00
場所 割烹 湖月
(大阪市中央区東心斎橋1丁目)
来賓御案内 種市参与
受付 小山、田端参与

1. 開会の辞(総司会 岡事務局長)
2. 挨拶と経過報告(支部長)
- 最近の関西支部の動向
(都市の自然環境研究会「俗称芋煮会」、新鶴窓の森(学園全体)構想、交友推進協議等)
- 規約・役員について(事務局長)
3. ミニ講演会(畑幹事)
造園業今昔 花豊造園(株)顧問 古川幹事
環境こだわり
湖北農業農村振興事務所長 伊藤幹事
4. 懇親会 (司会・河上幹事)
乾杯 (伊藤三男顧問)
初参加者紹介 (事務局長)
歌・山形県民謡
(庄内おぼこ他舞踏も含め映写)
5. 来賓紹介(挨拶(司会 種市参与)
校友会事務局長(鈴木英一氏)
鶴窓会本部代表(佐藤農一氏)
ふすま同窓会代表
米沢工業会代表(田中聡氏)
関西山形県人会代表
(菅原格氏、渡邊嘉昭氏)
6. 懇親会 II (田端参与)
黙祷(故中道氏へ)各学科・同期
寮歌・逍遙歌・校歌
7. 写真撮影 (松田参与)
8. お願い (事務局長)
9. 閉会 (斎藤参与)
(再会誓い解散)

鶴窓会関西支部 役員
支部長 安富俊晴(S38農工卒)
事務局長 岡 勝行(S50園芸卒)
技術参与 松田年司(S41農工卒)
幹事 古川良和(S45農卒)

参与
鈴木俊一郎(S45林卒)
伊藤利昭(S53農工卒)
畑 繁喜(S50農化卒)
西村 健(H9環境卒)
河上貴宏(H16生産卒)
河上彩矢佳(H17生産卒)
嶋田裕亮(H14資源卒)

齋藤治蔵(S38林卒)
種市英雄(S43農卒)
小山文男(S45農化卒)
田端一晴(S49農工卒)
渡瀬 孝(S47園芸卒)
顧問 穂波信雄(S34農卒)
伊藤三男(S37林卒)
京滋地区マネージャー
鈴木顯雄(S41林卒)
阪神地区
赤木佳彦(S55農化卒)
附 則
平成25年10月5日より
実施する

(関西支部：大阪市中央区東心斎橋196、シティコープ心斎橋601、旧地方計画設計コンサルタント事務所、会場の湖月は50mの位置になります)
Tel: 06-6252-6887
Fax: 06-6252-6887



関西支部総会 平成25年10月5日(土) 於 大阪心斎橋 割烹 湖月

各地域の受賞の紹介



酒田市功労表彰

酒田市在住

五十嵐 敬司

(昭和32年農学科卒)

37年間の教員生活において、楽しく分かりやすい高校理科教育に邁進され、卓越した指導力と情熱により「科学の甲子園」と言われる日本学生科学賞最優秀に何度も導いてこられました。

その後、山形大学などの講師として、生き物の素晴らしさを伝える多くの講座を担当され、ふるさとの自然や生物について広く紹介した本も

酒田市農業賞

酒田市在住

阿部 重彰

(昭和48年農学科卒)

出版されました。
(裏表紙 著書の紹介参照)
平成7年から酒田市文化財保護審議会委員を務め、平成14年からは同副会長として活躍されるとともに、県の文化財保護指導委員として飛島の貴重なサンゴの生態調査に携わり、酒田市の自然保護活動の推進に尽力されました。

平成17年からは酒田ユネスコ協会会長として、さまざまな事業を積極的に展開し、市民の生涯学習の充実と発展に貢献されました。
(酒田市広報より抜粋)



つや姫、はえぬき、ひとめぼれ、コシヒカリなど特別栽培

米の良質米の生産と小菊や果樹(刈屋梨)特許庁地域団体登録商標「地域ブランド第一号」を取り入れた複合経営に力を注がれるとともに、地域営農の中心的存在として254名の構成員を擁する集落営農組織「特定農業団体本榎ファーム」や「農事組合法人ビーンズ本榎」の設立・運営に携わって来られました。庄内地区114団体の庄内地域集落営農組織連絡会議の会長も兼ねています。

また、山形県品種審議会委員や独立行政法人東北農業研究センターの運営委員、庄内農業生産組合長会

長、酒田市農業委員などの要職を歴任され、平成11年から山形県指導農業者士に認定され、平成23、24年には山形県指導農業者士会の副会長をつとめました。

地域のモデル的農業経営の実践者として、山形県農業大学校、明治大学農学部、山形大学農学部などの研修生を受け入れるなど積極的に担い手育成に尽力され、酒田市農業の振興と発展に貢献されました。

「大学卒業前後から農業は曲がり角といわれてきましたが、そろそろ焼けほっこいから、新しい農業の火の鳥が誕生する時かなと思つています」というコメントを頂きました。



阿部 重彰氏(昭和48年農学科卒)と奥様

追悼

オヤジ先生を偲び

食科生命環境学科
安全農産物生産学コース准教授

角田 憲一

(昭和63年農学科卒
平成2年農学研究科修了)

生井先生といつものように研究室で昼食を一緒に過ごさせていたでいた時のことである。その時の会話を忘れることができない。また、これこそが先生を最も適切に表現している会話であったと思う。――学生が奇抜な身なりをして研究室に来たときにどうするか、という話題であった。20歳過ぎの大人が自分の責任で自己表現をしているのだから、私たちが身なりのことをとやかく言わなくてもよい、そもそもそれは専門教育を担う大学教員の仕事の対象ではない、私の意見である。そのような考え方をしている教員が圧倒的に多いと思う。私がそのような話をした後、先生はすぐに次の事例を出された――卒業式の朝に

ね、うち(植物病理学研究室)のKがとても奇抜な髪にして研究室に来たんだが、すぐに床屋に行つてこいと怒鳴つてやったよ。――いかにもそれは先生らしいと感じたし、先生を知る多くの人がきつとそう思うであろう。しかし、先生がなぜそのような対応をされるのかをそれまで本当に理解していなかった。「かくちゃん」、先生は私のことをそう呼んでくれた。「かくちゃん」がKのオヤジだったらどうする、オレはね、いつも学生達のオヤジだったらどうするかと思つて言つてやるんだよ。」

今になって思えば、先生の研究、大学運営、そして特に力を入れておられた学生教育など、そこを原点に考えておられたと思うことができる。また先生のこれまでを振り返ればそこを原点にするとうまく理解できるのである。世の中、言葉はとても優しくても基本的には他人に無関心な人が多くなっている気がするが、先生は「厳しくて、そ

して本当に心の底から学生達のことを心配してくれるオヤジ」であったと思う。オヤジがいなくなり、本当に寂しい。K君について、「結局、親父からも怒られて、髪をきれいに切つて卒業式に出席したんだよ。」と、うれしそうに先生がお話しをされていたのを思い出す。

生井先生を悼む

山形県庄内総合支庁
農業技術普及課産地研究室

菅原 敬(旧姓大友)

(平成3年農学科卒)

生井先生の突然の訃報には大変驚きました。3月の退官のお祝では大勢の教え子に囲まれて終始にこやかな表情でしたし、6月末には鶴岡で溪流釣り解禁になった鮎釣りを楽しんだばかりでした。その時も元氣そうなお様子でしたので、まさかそれが最後の思い出になるとは夢にも思いませんでした。

先生には学生時代の2年間、また数年前までは連合大学院の社会人学生として4年間ご指導をいただきました。

先生の指導方針は、始めのやり方を教え、あとは学生が行動を起こすのを辛抱強く待つものでした。学生は嫌でも広い草原で餌を探し、武器を拾いながら歩くことを身に付けなければ卒業できません。40歳を過ぎて研究室に通つた時もそれは変わっていませんでした。数年前にその件を伺つたところ「イライラするし、くたびれるよ。それで待つんだ」とおっしゃっていました。学生を信じてずつと見守つてくださる姿に、私たちは自ら奮起することを学びました。そして病理研究室は農学部の中で一番勉強する研究室として皆が目指すところとなつています。学生の指導には相当の思い入れがあるのでしようか、普段の会話でも、学会賞を受賞されたご自身の素晴らしい研究より、「あの年の学生も頑張つていいと就職したんだよなあ」と目を細めてフツフツと笑いながら研究室の卒業生たちの話をするのがお決まりのパターンでした。

先生は釣りにも精通して近所に住んでいることもあり、年によっては毎週末のように鮎釣りを一緒にしました。先生は数多くは釣りましたが、魚が掛からなくとも穏やかに水面を見つめて魚を待つ釣り姿は、どこか研究室のご指導と重なっているように見えました。恩師と竿を並べて釣果を競う「釣りバカ日誌」の「コマのような情景は、私の脳裏に鮮明に焼きついており、先生との大切な思い出となつていきます。「俺、残り少ないから。論文の書き方教えられるのは今だけだぞ」と博士課程に入るよう背中を押して頂いた(先生に釣られて?)のも釣り場でのことでした。退官のお祝いではもつと釣りを楽しんで頂きたく、研究室の同窓会から鮎用の釣竿を差し上げましたが、かなわずに残念でなりません。

私はよき師に出会えて幸せでした。先生のお陰で今の自分があると思つています。いつも学生を第一に考え、厳しくも奥底にある力を信じて引き出したご指導は、私の中でずつと生き続けるでしょう。生井先生、どうぞ安らかに眠りください。そして本当にありがとうございます。

生井恒雄名誉教授 のご逝去を悼んで

食料生命環境学科
安全農産物生産学コース 准教授

長谷 修

農学部名誉教授の生井恒雄先生（植物病理学分野）は、平成25年7月27日、ご逝去されました。自然が好きだった生井先生には、退職されてからも自然を散策しながら教えを受けたかったのに、それができなくなってしまうことが残念です。心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。

生井先生は昭和62年7月に山形大学に助教として着任され、平成10年8月に教授に昇任、今年、平成25年3月に定年退職されました。この間、一貫してフィールドを中心とした植物病理学研究に取り組み、また、農学部生物生産学科長や食料生命環境学科長を務めるなど研究教育、大学管理運営全般に尽力されました。

先生のご研究は、イネいもち病をはじめとする植物病原菌の生態学的研究とその成果を生かした環境保全型病害防除技術の開発研究でした。中でもイネいもち病菌

の変異に関する研究成果はこれまでの教科書を書き換えるほどの偉業であり、最新の教科書に掲載されました。このような成果が得られたのは、普段から山、川、海など自然を観察したことであり、農作物の栽培現場に向いて実際に観察したことであり、採取した微生物を顕微鏡で観察したことであったことを先生は生前振り返っておられました。自然をこよなく愛された先生ならではの研究成果であり、自然観察から大発見となる研究のヒントを生み出されていたことを私は教わりました。

生井先生は教育にも非常に熱心で、学生の将来を第一に考える先生の熱意は多くの教え子に伝わっています。研究室で指導をうけた学部卒業生125名、大学院修士課程23名、博士課程4名の教え子達は、卒業修了後も先生を慕って研究室を訪ね、時には家族を連れて訪ねてきた教え子もいました。また研究室の同窓会である「ばんけの会」での再会や、学会、会議など仕事での再会も頻繁でした。さらには、生井先生が所属されていた農学部バトミントン同好会でも生井先生と再会するのを楽しみにしていたOB・OGが大勢いたと

伺っております。生井先生を慕う教え子や関係者がどれほどいたのか計り知れませんが、生井先生とのあまりにも早いお別れは本当に無念でありませんが、様々な教えを残してくださりました。私たちはその教えを一つ一つ胸に秘め、培い、方々で花開かせていくことを御霊前に誓い追悼文といたします。

生井先生の思い出

茨城県立農業大学校

脇本 寛美

（平成17年生物生産学科卒業
平成19年農学研究科修士）

生井先生が亡くなったことは、今でも信じられません。告別式に出席しても、どうしても実感が湧きませんでした。今でも、植物病理学研究室を訪ねたらお茶会部屋の窓際の席に生井先生が座っているように思っています。私が生井先生を初めて知ったのは、高校3年の時でした。農学部を受験しようとしていた時、植物病理学という分野があることを知り、その時生井先生の名前を知りました。

山形大学に入学し、鶴岡のキャンパスで講義を受けるようになり、農学の楽しさを知りました。生井先生の講義は難しかったけれど、とても勉強し甲斐のあるものでした。研究室にも度々通い、生井先生には何冊も面白い本を貸していただいたりしました。

研究室に配属されてからは、お茶会を始めとしてゼミなどで研究のことから日常生活の事までいろいろなることを教わりました。お茶会に遅刻することがあった私に、「時間を守るように」という生井先生の言葉はいつも耳が痛いと思っていました。農業大学校で先生をするようになり、今度は自分が学生に「時間を守るように」と口を酸っぱくして言うようになり、何だか不思議な感覚を覚えました。社会に出てみて、生井先生の言葉はとて大切なことが多かったなと改めて思いました。

生井先生の印象は、怖い、厳しいという言葉がぴったりで、生井先生のことを苦手に思う学生も多かったように思います。私も学生時代には、生井先生に反発する気持ちを持ったこともあるし、先生のことを怖いとも思っていました。

でも実際は、生井先生は

研究室の学生だけでなく、農学部の学生全体を見守ってくれたとても優しい先生だと思えます。公務員試験が全滅で心が折れそうな時も温かく見守ってくださり、卒論や修論で頭がパンクしそうな時も最後の最後まで面倒を見てくださいました。生井先生が導いてくれたおかげで卒業し、社会に出ることができたと思っています。私は農業大学校で学生を教える立場になりました。そして、人に何かを教える、人を育てるといったことの難しさや責任を実感しました。そのとき、改めて生井先生の教育者としての素晴らしさに気付きました。

先生からこれまでにいただいたご指導・ご助言に対し深く感謝するとともに、ご冥福を心からお祈りします。

訃 報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

()ご逝去年月日

昭和28年農学科卒	海老名 祥吉 氏(旧姓石井)	(平成20. 1. 8没)
昭和42年農学科卒	鈴木 秀三郎 氏	(平成22. 1. 11没)
昭和39年農学科卒	赤澤 義遵 氏	(平成23. 2. 15没)
昭和51年園芸学科卒	藤尾 静幸 氏	(平成24. 1. 12没)
昭和30年林学科卒	藤岡 実 氏	(平成24. 5. 5没)
昭和26年農科卒	三井 高晴 氏	(平成24. 4. 10没)
昭和49年農芸化学科卒	大竹 明子 氏(旧姓吉見)	(平成24. 5. 23没)
昭和35年農学科卒	池田 惇二 氏	(平成24. 6. 5没)
昭和48年林学科卒	橋本 教一 氏	(平成24. 6. 30没)
昭和45年農業工学科卒	渡部 一之 氏	(平成24. 8. 16没)
昭和31年林学科卒	佐藤 次彦 氏	(平成24. 8. 19没)
昭和35年林学科卒	小笠原 洋一 氏	(平成24. 9. 16没)
昭和29年農学科卒	五十嵐 俊雄 氏	(平成24. 10. 17没)
昭和34年林学科卒	佐藤 久雄 氏	(平成24. 11. 20没)
昭和28年農学科卒	佐藤 五郎 氏	(平成24. 12. 16没)
昭和37年農学科卒	中村 雄一 氏	(平成25. 2. 17没)
昭和28年林学科卒	佐藤 昭 氏	(平成25. 2. 20没)
昭和44年林学科卒	中道 正 氏	(平成25. 2. 20没)
昭和30年農学科卒	小松 隆義 氏	(平成25. 2. 26没)
昭和33年農学科卒	松浦 外治 氏	(平成25. 3. 9没)
昭和30年農学科卒	松澤 與司元 氏	(平成25. 3. 13没)
昭和35年農学科卒	松田 義行 氏	(平成25. 3. 13没)
昭和31年農学科卒	山縣 耀時 氏	(平成25. 5. 15没)
昭和55年農業工学科卒	八島 伝内 氏	(平成25. 6. 14没)
昭和28年農学科卒	鈴木 皖司 氏(旧姓中野)	(平成25. 8. 25没)
昭和30年農学科卒	清野 盈夫 氏	(平成25. 9. 18没)
昭和42年林学科卒	鈴木 一正 氏	(平成25. 9. 24没)
昭和29年農学科卒	阿蘇 和夫 氏	(平成25. 11. 11没)
山形大学農学部 元教授	生井 恒雄 氏	(平成25. 7. 27没)